

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成28年度技術情報第1号（ナシの黒星病）について（送付）

ナシ果そうの黒星病感染率が葉や果実で昨年以上に高くなっています。今後も感染しやすい気象条件が予想されますので、感染拡大を防ぐために定期的な予防散布に努めてください。

平成28年度技術情報第1号

- 1 対象害虫 黒星病
 2 対象作物 ナシ
 3 発生地域 県本土
 4 発生量 多

5 情報の根拠

- (1) 2月上旬の花芽りん片の感染率は過去3年間で最も高かった（表1）。
 (2) 4月中旬の果そうの感染率は昨年以上に高かった（表1）。
 (3) 4月中旬の巡回調査では、発病葉率が0.2%（平年0.4%）と平年並みであったが（表2）、果実で中発生のほ場が認められた。
 (4) 4月上旬は降雨日が多く、感染に好適な濡れ条件（20℃では9時間）が多かったと推測される。また、気象庁の1か月予報では、平均気温は高く、降水量が多いと予報されている。

表1 黒星病の感染調査の結果

年	2月上旬	4月中旬*	
	花芽りん片 (%)	果そう (%) (長果枝) (短果枝)	
H28	2.0	0.8	0.7
H27	1.3	0.8	0.1
H26	0.8	0.2	0.0

* 平成26年は4月9日調査

表2 巡回調査での発病状況

年	4月中旬		5月中旬	
	葉 (%)	果実 (%)	葉 (%)	果実 (%)
H28	0.2	0.6	—	—
H27	0.0	0.2	10.3	7.3
H26	0.0	*	2.3	12.0
平年	0.4	—	5.8	4.3

* 一部園の臨時調査では6.0%

6 防除上注意すべき事項

- (1) 本県での主な第1次伝染源は、2月下旬～3月に発生する芽りん片の病斑（分生子）である。春先の降雨により、分生子が花芽基部、果梗等に伝搬され、感染すると2～3週間の潜伏期間を経て発病する。
 (2) 防除は、新梢伸長期までを重点に、約10～14日間隔で予防を主として行う。また、農薬散布は天気予報に留意し、降雨前に行う。
 (3) 使用薬剤は、同一系統薬剤の連用を避け、作用性が異なる薬剤のローテーション散布を行う。